

第8回川ごみサミット(2023/1/28)でいただいた質問・意見

	質問	ご回答者	回答
1	ごみ対処 パトロールがごみの不法投棄の予防に効果的として活動して下さっていますが、現場では不法投棄やブルーテント建設が目のおきても声を掛けられない状態です。パトロールや看板の効果がどれくらいあるのか調査されているのでしょうか？効果測定されているならば結果を教えてくださいと幸いです。	国交省 河川環境課	1つの事例となりますが、地元警察と連携して看板を設置したところ、不法投棄の件数が約半減したという結果はございます。(詳細は「ごみのない水辺を目指して～流域と連携した河川ごみ対策の事例集～(案)」のP.28をご覧ください。)
2	予算 海ごみ担当1年目の県職員です。自治体での海ごみ回収処理の予算としては海ごみ補助金(環境省)を活用できるのは知っているのですが、海ごみ補助金は川ごみの回収処理には適用できないという認識です。自治体において、川ごみの回収処理を促進するための、予算措置(補助金)などがありましたら、教えてくださいとありがたいです。	国交省 河川環境課	当省において、川ごみ回収処理のための補助金はございません。
		事務局 補足	海ごみ対策の補助金は、川ごみの回収処理には適用できませんが、内陸域でも、海ごみ発生抑制対策には活用できます。
3	その他 ペットボトル以外の飲料容器とはどのような物があるのでしょうか？	遠賀川 流域住民の会	全国川ごみネットワークが実施する「水辺のごみ見つけ」の対象としている「カップ型飲料容器」のことです。プラ製です。

チャットからのご意見

5	ごみ対処 陸域で生じるプラスチックごみも、細片化し、マイクロプラスチック(ナノプラスチック)になる。微細な薄片(剥片)で比重が軽いので、長期間空中に漂い、私たちの体内に入ってくる可能性がある。川ごみ対策と陸域でのごみ対策をセットで進めることが出来ないだろうか		
6	ごみ対処 管轄という垣根、川はだれのものかという根本的な問い、がいっぺんに突きつけられる、行政機関にとっては厳しいのだろうなと理解できます。ただ、やはり総合的な対処をしていくことがもとめられるのだと思います。これからですね。		
7	ごみ対処 人口7000人の町に住んでおりますが、うちの自治体ではペットボトルは燃えるごみと一緒に町の焼却場で燃やしています。生ごみを燃やすようにチップにしています。海のペットボトルは海水が付いたり劣化していればリサイクルできません。もちろん暮らしのごみの削減は大前提ですが、落ちているごみは、拾った先のことを考えずに拾えばそれだけで良いのか？ごみ(暮らしで使う製品)が産まれて死ぬまたは死んで再生するまで(町の清掃センター・産業廃棄物)の流れを視える化が必要でしょうか。 川の繋ぎ目で多様なごみが溜まると九州の方の発表でありました。人と自治体なども同じで、繋ぎ目というパートナーシップを強くする為に同じ土俵が必要だと感じました。		
8	車が大量にごみをポイ捨てゴミを広げています。発生源同様ルートも考えていけばいいと思います。		
9	法・制度 ペットボトルの河川への廃棄がなくなるだけでなくいぶん改善するよう思えます。社会制度としての取り組みが必要では？かつてポイ捨てが酷かったタバコも、今は鉄道駅でもプラットホームでも職場でも吸えなくなり、かなり変わりました。		
10	法・制度 資源は限りがあるので必要なものにプラスチックをつかうようにするといいいとおもいます。レジ袋を使わないようになって川ごみからレジ袋はすくなくなりました。効果はでています。		
11	予算 川ごみ処理と生物多様性のコンフリクトもあつたりします。県(王木)に川ごみを処理する予算がないので、河床掘削予算で川ごみを処理する事例があります。しかし、不用意に河床掘削をしてしまうと、場所によっては希少生物群に大きなインパクトを与えてしまう怖さがあります。しかし、地元からは陳情があるのでジレンマに陥ってしまったりしております。ごく一部ですが、その間をNPOが担うなんてこともやっておりますよ。地元陳情と行政の対話の場をNPOがとりもつてやつですね。ご参考まで。		
12	その他 プラスチックがゼロになると地球は持たないと思います。代わりに木や綿花など製造するとして、植物の育つスピードより全世界の人口の物欲の方が圧倒的に上です。プラスチックもそうでないものも新しい製品を作りすぎない。消費者も新しいものより長く使うことがそもそも、大事だと思います。賢い消費者の学びの場が必要で。		
13	その他 便利さが最優先されすぎていると思います。マイボトル制にする等必要なところ以外は減産・製造停止してよいものもあります。		

(参考)チャット内での意見交換

S様

議論11について、少し現在の議論から外れるかもしれませんが、人工芝の破片など、微細なプラスチックが雨水管を通り河川へ放流される事例を聞いております。ならば、雨水の河川吐水口に何らかのフィルター機構を設け、これらの放流を抑制すれば良いと思うのですが、機構開発や設置の予算の出どころの問題で難しいのでしょうか…。不勉強で申し訳ありません。

環境省 海洋環境室

人工芝対策としては、そもそもスタジアムから下水に至る前にフィルターで捕える設備を導入している事例もあります。マイクロプラスチック対策の企業の先進事例集を公表しております。

https://www.env.go.jp/water/post_113.html

環境省 海洋環境室

ペットボトルをポイ捨てしないよう、デポジット制度として、一部コンビニでは無人回収機を設置して、電子マネーがキャッシュバックされる仕組みが導入されています。一部でしかありません。

N様

一部コンビニだけではなく、全てのコンビニ、販売店で設置されれば激変すると思います。そのためには法整備、社会制度による取り組みが必要と感じます。

環境省 海洋環境室

Reacted to “一部コンビニだけではなく、全てのコンビニ...” with 🍀

K様

ペットボトルはデポジット制度で簡単に減らせると私も思います。コンビニなどに置かれている回収機は、販売時にデポジット(保証金)を上乗せしていないので、本当のデポジット制度ではないのですが、拡大生産者責任のもとでの本当のデポジット制度が必要だと思います。

I様

ペットボトルはKIOSKで売られていて、飲み終わったペットボトルをKIOSKへもっていくと結構なお金が戻ってくる。要は管理することが大切。(ドイツ・ハンブルク市で2018年に経験)